

Contents

HIV/AIDS コミュニティのネットワーク	
国際会議の贈り物	1
東京レズビアン&ゲイパレード 2005 関連イベント	2
ネスト学習会	3
ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会	4
パディ/ホットライン部門 合同企画研修	5
活動報告	6
お知らせ	8

「HIV/AIDSコミュニティのネットワーク - 国際会議の贈り物」

樽井 正義

われらが池上千寿子にエイボン女性教育賞が贈られるという。その人柄と活動からして当然と思うが、やはり嬉しい。とても嬉しい。友人が、その活動の意義が、社会に認められるのだから。

その知らせを受けてほどなく、パリにいるドナルド(ドン)・ドゥガニエから、母国カナダの総督、つまり英国女王の代理人から Order of Canada の Member という勲章をもらうことになったとメールが入った。見てくれと言われたウェブサイトを開けると、国内外を問わず人々に優れた貢献をした人を顕彰するもので、名前のあとにCMという称号がつけられることになること知った。

国際エイズ会議が1994年に横浜で開催されたときに、ドンは世界の陽性者ネットワークGNP+を代表して国際諮問委員をつとめた。まだHAARTがなかったときで、いつまで生きられるのかと顔を曇らせることもあった。それがいまや、パリに本部を置く途上国支援のNGOをベースに、アフリカを中心に世界を飛び回っている。

アジアのコミュニティへの貢献も大きい。2004年のバンコク会議では、学術プログラムに併置されたコミュニティ・プログラムの委員長に、開催国のミスター・コンドーム、ミチャイ・ヴィラヴァイジャとともにドンが指名された。高い参加費の本会議と並んで、入場無料のグローバル・ヴィレッジを開設し、コミュニティの盛り上げに尽力した。

神戸会議でもずいぶん助けられた。延期のため順序が入れ替わって先行したバンコク会議で、神戸を宣伝するブースが欲しいと頼み込んだら、展示場の中央通路をはさんでUNAIDSの真向かい、セブンシスターズ(アジア太平洋エイズ関連ネットワーク連合)の隣の角地という最高の場所を用意してくれた。ICAAPは地域でいちばん重要な会議なのだから当然だ、というのがお礼に対する返答だった。神戸会議ではさらに、コミュニティ・フォーラムに加えて、市民に会議を伝えるパレードを実施する資金まで引っ張ってきてくれた。

1999年のICAAPのコミュニティ・フォーラムが、アイリーン・フェルナンデスと直接に話す最初の機会だった。それが開催されたクアラルンプールに先日出張し、ホテルでインターネットにつなぐと、もう一つのノーベル賞と呼ばれる Right Livelihood Award がアイリーンに授与されるとのプレスリリースが、SHARE(シェア=国際保健協力市民の会)の沢田貴志から転送されてきた。なんとというタイミング。出張は彼の代理としてCARAM-Asiaの会議に出席するためであり、その設立者であり代表がアイリーンだ。

70年代から消費者運動、女性運動、さらにマレーシアの経済成長を底辺で支えた外国人労働者の人権擁護運動に、アイリーンは文字通り体を張って取り組んできた。外国人の健康にはその社会的地位の危うさとそれゆえの人権の侵害が、目に見えるかたちで現れる。ところが移住者の労働権は問題にされても、健康権は見落とされ、アジアのHIVが注目され始めても、移住者は見逃されていた。そうした国内問題に対応するためにTENAGANITAを設立した。移住労働者にもHIVにも国境はないのだから、続いてアジア太平洋のネットワークCARAM-Asiaを発足させたのは当然の展開だ。

HIV/AIDSに関わっていると、同じ課題に真摯に取り組むすばらしい友人との出会いに恵まれ、大きな勇気を与えられる。世界中のそうした友人に引き合わせてくれるのが国際会議だ。10年前の横浜会議でコミュニティに開かれた組織委員会のチャンネルは、池上千寿子がチェアをつとめた一小委員会だけだったが、神戸会議では組織委の過半を超えるコミュニティの仲間が、すべての小委員会に加わった。委員はJaNCA(神戸会議NGO連絡会)を介して日本中の仲間につながっている。神戸会議の開催は、この10年間に私たちの仲間が着実に成長していることを自覚させてくれた。そしてこの会議を通じて、アジア太平洋の、さらには世界の友人たちとのネットワークは、より広くより強く育っている。これも嬉しい。

東京レズビアン&ゲイパレード2005 関連イベント

8月13日に3年ぶりで東京レズビアン&ゲイパレードが開催され、ぶれいす東京のブースを出展。また、前後して関連イベントも行われました。「研究成果発表会～HIVのリアリティが変えるもの?～」(主催(財)エイズ予防財団/企画・運営:ぶれいす東京)、「全国HIV陽性者交流会」(主催:TOKYO Pride/運営:日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス/共催:ぶれいす東京ほか)。

「成果発表会『HIVのリアリティが変えるもの?』報告」

砂川 秀樹

前夜の大雨が嘘のようにあがって迎えた当日。パレード参加受付開始間もない時間帯ながらも、多くの参加者が野外ステージ前に集まり、炎天下、熱心にシンポジウムに耳を傾けてくれた。



研究報告とトークセッションの6名の演者

最初に市川誠一氏(名古屋国立大学教授)が日本の男性同性間のHIV感染の現況について説明した後、生島がインターネットを使っての質問紙調査の結果を、砂川が陽性者のインタビュー調査の結果を発表した。その後、生島・砂川の司会で、市川氏、長谷川博史氏(ジャンププラス代表)、張由紀夫氏(aktaディレクター)、伏見憲明氏(評論家)に参加いただき、先の市川・生島・砂川の報告をもとにテーブルトークをおこなった。

その中で、長谷川氏は、HIV陽性者がまだ『バーチャルな存在』に留まっていることを指摘、張氏も、身近感ももっとバーやハッテン場等のコミュニティーに広がることの大切さを強調した。また、伏見氏は、ゲイの間で感染拡大が深刻な状況には、ゲイのセックスカルチャーのあり方がかわっているのではないかと、そのカルチャーのあり方を見直す時期に来ているのではないかと問題提起。それに関連して、市川氏が、マスコミにも情報が出ず、当事者も知らず、行政も発言しない状況を考え直さなければいけない、と発言をおこなった。時間が短かったため、意見交換を行う時間はなかったが、アンケートからは、それぞれのコメントが聴衆に強い印象を与えた様子がうかがえた。

「TLGP2005 ブース出店」

一平

8月13日に代々木公園で開催されたTLGP2005にぶれいす東京のブースを出店した。

ブースではぶれいす東京の各種マテリアルの展示、および1000個のレッドリボン付きバッジと500個のコンドームケース・Living Together LETTERSの配布を行った。

ブースをオープンした頃は曇りがちで涼しかったが、時間が経つにつれて強い日差しとなり、ブースの中はさしずめ蒸し風呂状態であった。ブースを訪れる方は若者から年配、ゲイ、レズビアン、外国人、見ていてうらやましくなるような仲の良いカップル、そしてなぜか親子連れと様々で、展示物を熱心に見たり、配布物を受け取っていた。

ブースでは特に若手のボランティアが積極的にマテリアルの配布を行ったこともあり、用意していたバッジとコンドームケースを全て配布することが出来た。横断幕、プラカード、配布物の事前準備、そして当日のブースのセッティングなどで多くのボランティアが協力してくれたため無事終了す

ることが出来た。みなさまお疲れ様でした。

なお、設置した募金箱には合計40,419円と多くの募金が寄せられた。

「全国HIV陽性者交流会に参加して」

温州みかん太郎

東京パレードが3年ぶりに復活ということは、こちらも3年ぶりということで、パレード翌日、都内某所で開かれた全国陽性者交流会に参加しました。よちよち歩きぐらいには達した日本の性的マイノリティコミュニティが、その総決算とばかりに贈る大イベント。前後のサテライト企画も数多く、ポジ交流会もそのひとつ。

来てみればスタッフふくめて53名の参加。「セ・ファーセックスが呼びかけられて久しいこの時代に、こんなにたくさんウツカリ者が!？」と思ったのは私だけで、うっかりオゲイ(私よ)以外にも薬害のかたも参加されています。というか、じつはふだんあまりポジの集まりの場に出かけないので、女性のかたもふくめていろいろな立場や状況の陽性者と一堂に会うのは、私的には珍しい経験。かつて薬害の原告団をつとめ、いまは、ネットワーク医療と人権(MERS)で活動される大阪の花井十伍さん*にはじめてお目にかかり、個人的に関心があって調べていた、感染者が障害者認定されることになったいきさつや、当時の厚生省の検討会での思い出をうかがったりして、興味深いひとときとなりました。

また、こちらがゲイコミュニティでポジであることをあまりオープンにしてないので、お顔だけ知ってたゲイと「あら、あなたも?」みたいなポジの名乗りをしあって、ポジ知りあいも増えました。おかげでミクシーのマイミクが3名増えた(笑)。スタッフのかた、本当にありがとうございました。

*花井さんの了解の上で掲載しています



レッドリボン付きのLiving Togetherバッジ



成果発表会の会場には200人近い参加者

ネスト学習会

7月31日「更生医療の制度変更について」が都内の会議室で、9月21日「女性ポジティブのための学習会～Dr. 対馬ルリ子と話そう～」がネストにて、それぞれ開催されました。開催スタッフによる報告と参加者の感想文をあわせて報告をします。

学習会「更生医療の制度変更について」

7月31日に都内の会議室に47名のHIV陽性者が集まって、この学習会が行われました。

障害者自立支援法の成立によって、HIVにかかる医療費はどうなるのだろうか、更生医療の制度はどうなるのだろうか。そんな疑問や不安があちこちで聞かれるようになり、学習会を開催することになりました。この時点では法案がそのまま通るのかどうかははっきりせず不透明な部分も多くありましたが、わかることだけでも整理をしようということになったのです。

区の福祉事務所で実際にこの問題をフォローしている、蓮見 宜幸さん(身体障害者福祉司)が「身体障害者手帳・更生医療の基礎知識」を、宮川 善章さん(ケースワーカー)が「更生医療はどう改定されようとしているのか?」、そして、東京慈恵会医科大学附属病院のソーシャルワーカー、友田 安政さんに「制度利用のポイント」をお話しいただきました。

休憩をはさんで後半は質疑応答。休憩時間中に参加者に書いてもらった質問票をもとに、講師3名がコメントをするという形式でしたので、たくさん具体的な質問がありました。

以下、参加者アンケートの自由記述より抜粋。

「現場・行政にたずさわる方からのタイムリーな情報が得られて良かったと思います。」

「参院を通過していないので見切り発車の内容だったと思うが、前段階として知っていて、そんな内容だったと思う。」

「初めてこういう催しに参加しました。皆さん勉強していてビックリしました。」

「タイムリーな企画で大変ありがたいです。病院のMSWに聞いても、あと3ヶ月待ってくださいと言われたもので、少し不安でした。でも概略がわかり安心しました。」

(報告: 矢鳥)

女性陽性者のための学習会「～Dr. 対馬ルリ子と話そう～」

去る9月21日(水)の夜、久々に女性陽性者のための学習会が開催されました。講師の対馬ルリ子さんは産婦人科の医師で、都立病院の産婦人科医長などを経て、一人一人とじっくり向き合う医療をめざして女性総合外来「ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニック」を立ち上げたそうです。

学習会には、パートナーの方を含めて8名が参加し、対馬さんが医学生の頃からの知り合いだという池上代表の司会で進行しました。HPV(ヒトパピロウイルス)と子宮頸がんのこと、そして妊娠、出産のしくみについて一通りお話を伺ったあと、ざっくばらんに聞きたいことを参加者からだしてもらいました。

子宮頸がんは早期発見早期治療をすればこわい病気ではなく、妊娠・出産も可能なこと。そのためには20代から定期検診をしたほうがいいこと。

女性がHIV陽性である場合の妊娠・出産について、人工授精や体外受精、帝王切開といった情報を整理したうえで、母子感染の確率を低く抑えて出産することが可能であることなどを、わかりやすく話していただきました。対馬さんの話

し方から女性やからだに対する温かいまなざしが感じられて、こんなドクターなら安心して話ができると思いました。

学習会は、また、なかなか他の女性陽性者と会う機会のない女性同士の交流の場ともなり、会が終わったあとも参加者同士の話がはずんだようです。今後もこのような学習会を開催する必要性を感じました。こんなテーマで話を聞きたい、話し合いたいということがありましたらお知らせください。

(報告: はらだ)

参加者感想文

「女性ポジティブの会に参加して」

ミカ

女に生まれたからには、赤ちゃんを身ごもって、ママになって、家族を築くことを夢見る。それって、普通の事じゃない?いくら、ポジだからって賢沢でもわがままでもないよね。少し困難かもしれないけど...決して希望を捨てたりしないよ。1人で出来る事じゃないし、思ってたってする事じゃないのは、誰でも変わらないもん。ただ少し心配事があるって、神頼みが多くなりそうだけど。ただ1つは、本当に信頼できるパートナーと計画する事。

今回のミーティングで、同じ立場の女の子と考えを話し合う事が出来て本当に良かった。そして、心地よい環境で専門家に直接質問する機会がめったにないし、いろんな意味で自信になった。今は、まだ赤ちゃんは早いけど、いずれ来る日のために、今から出来る努力をしようと思う。

「情報を共有しあうことって大事」

ななこ

子供は欲しい、でも子供には感染させたくない、パートナーにうまく理解してもらえるだろうか、帝王切開って?母乳はあげれないのか等、妊娠・出産については以前から疑問や不安を抱えていました。特に陽性者ならではの、今後どういった対応をしていったらいいのかよく分からなかったのです。

私はただでさえ無知であったため、その点について先生から詳しく丁寧に説明をいただいとでもあり難く思いました。なかなか直接専門の方から長時間にわたってじっくりお話をする機会がないのでこういった学習会はとても貴重で、参加できて本当に良かったです。

また同じ立場の女性の方達との意見交換も大変参考になりました。情報を共有しあうことって本当に大事だと実感し、話し合うことで大分精神的に安心することができた気がします。子供を産むのはもう少し後になりそうですが、これから何が出来るか、自分を見つめ直す良いきっかけになりました。

また機会がありましたら参加したいと思えます。対馬先生はじめ主催して下さった皆様どうもありがとうございました。



池上代表とDr. 対馬(右)

ぷれいす東京 新人ボランティア合同研修会 開催

各部門合同による新人ボランティア研修も今年では4年目を迎えました。場所は昨年同様、池袋にある豊島区生活産業プラザにて、オリエンテーションを9月3日、研修を9月11日、19日、25日に行いました。今回も新聞やインターネットで募集をかけたところ、今年はこれまでに最多の40名近い研修者、修了者となりました。今年も参加者の声を少しだけですが紹介します。

「新人合同研修会を開催して」 牧原 信也

運営スタッフとして研修で悩むところは、3日間の研修で何を感じて、考えてもらうか、またそれによって講義の内容をどうするか？ということです。それに合わせて毎年研修の内容も少しずつ改良を重ねています。去年から強力な助っ人として兵藤さんの協力があるのですが、今年もあーだのこーだのと議論を重ねて今年のスケジュールを決定しました。「自分への気づき、他者への気づき」はこれまでと同様に重要なコンセプトではありますが、それに加え今年ば「支援ってなに？」という、支援者、被支援者についての視点を盛り込み(別表のスケジュールを参照)気づくと今年もてんこ盛りの内容となってしまいました。研修生の新人の方には朝から夕方まで、タイトな時間割で講義の数も多く大変だったと思いますが、その人なりの何かを感じてもらえていればいいなと思います。

最後に研修のいい所は運営する側も、多様な研修生との出会いがあること、新たなエネルギーというかパワーをもらえるところです。(今年は初めて研修生の有志主催の交流会も開かれていました)これから、是非皆さんの力を各部門で発揮していただき、一緒に活動を続けていけるといいなあと思っています。今後ともよろしくをお願いします。

「初研修を終えて」 朔

私がぷれいす東京に出会ったのは、電話相談にお世話になった事がきっかけでした。検査の結果を待つのが不安で堪えられなく、かといって周りの友人に相談する勇気が無かったのです。

だから今回のプログラムを見たときに、話しにくい、できれば避けたいテーマだと緊張しました。しかし、普段話し合いにくいテーマが多かった事が、わたしに大きな気づきをもたらしてくれました。性について話し合う事の大切さや、自分以外の方の考えに、感じる事も多く、貴重な体験になりました。同時に、自分の見ていた世界の狭さ、考えの至らなさに恥ずかしさを覚え、更に勉強していかなくてはという思いです。

また参加されていた方が実に様々で、もっとたくさんのお話を聞きたい、3日間では全然足りないと思いました。これからの活動で、色々話し合えるかと思うと楽しみです。

「終わりなき『研修』」 小林 康人

三日間の研修を今改めて振り返ると、「気づき」という言葉がキーワードとして明確に思い出されます。とりわけ研修の最後、全員の「振り返り」を聴きながらわたしは、気づきという意味での研修はこれで終わりではないのだと強く感じました。自分自身ゲイでありながら、こんなに多くのゲイが参加していたことや、身近に陽性の方がいることに、少なからずわたしは驚いてしまったのです。研修を受けただけで理解できたような気になっていたのですが、改めて自分の無知や無意識的な偏見の根深さに気づかされた瞬間でした。

そういった意味で、本当に多様な研修生の仲間たちやスタッフの方々との出会いが、何より多くのことをわたしに気づかせてくれました。そして今後は利用者の方々との出会いが待っています。本当の「研修」に終わりはないという想いで、わたしは現場での「気づき」をこれからも大切にしてい

	9月11日(日)	9月19日(月・祝)	9月25日(日)
午前	グランド・ルール 医学的基礎知識 HIVの基礎知識と 検査法/福原	グランド・ルール 医学的基礎知識 性感染症の基礎知識 /福原	グランド・ルール ピア・サポートの 取り組み/矢島
	休憩	休憩	休憩
	エゴグラム/野坂	セクシュアリティ の多様性について /中村	支援って何だろう? /生島・兵藤
午後	昼食	昼食	昼食
	エゴグラムと交流 分析/野坂	相手のある保健行 動 ワークショッ プ/生島・兵藤	感染者の手記を読 むワークショップ /生島・兵藤
	休憩	休憩	休憩
	社会的な背景 /池上	相手のある保健行 動 講義/池上	振り返りの時 今後の研修について
	休憩	休憩	
	プライバシーとは /生島・池上	HIV感染後の生活 と社会サービス /牧原	
振り返り	振り返り		

きたいと思っています。

「理解と納得の3日」

壬生 明子

「ボランティア研修」という言葉のイメージを世間一般の通念でとらえていたなら、それをひっくり返されるような3日間でした。



講義もどこかの権威や先生を呼んできてなされるような授業ではなく、講師の方達が皆それぞれの立場で当事者として関わっている温度を感じられ、とても新鮮でした。何より私にとって目からウロコは、ワークショップ。はじめに配られた研修予定表を見ると、ワークショップはすべて午後イチから。これは昼食後の眠気防止？ぐらいの認識しかありませんでしたが(ごめんなさい!)目を覚ますにあまりあるものがありました。

ロールプレイングでは、他の参加者の方が話す姿を間近に見て、「私には、あんな素直に率直に言えない」とか「こんなにやさしく人の話を受けとめること、できるだろうか」と思いを動かされる場面がありました。また、常々自分はあまりセルフ・ディスクローズが得意なほうではないと感じていたのに、性に関わるへビーなテーマでも、思い切って話せば、それを普通に受けとめてくれる人達が回りにいること、話してしまえば何でもない気分になるのが不思議でした。それができたのも、研修がグランドルールに守られた場であったからでしょう。でも考えてみると、あの研修の場に限らずグランドルールを守れたら、ふだんでも人を尊重することができるのだらうなと思いました。これから実際のボランティア活動では、人を尊重できる私を発見していきたいと思っています。

バディ/ホットライン部門 合同企画研修

「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法～」

7月24日に、バディ・ホットライン合同企画研修、「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法～」が開催されました。講師に野坂祐子氏（大阪教育大学講師・臨床心理士）を向かえ、バディスタッフ（7名）ホットラインスタッフ（6名）が参加しました。

この研修会は、日頃現場で活動し様々なストレスを抱えているスタッフに有効なプログラムを還元しようということで開催することになりました。

バディ活動においても、電話相談活動においても、つきものなのは人と関係をもつことです。バディであれば、クライアントとの長期的・短期的な人間関係であり、電話相談だと匿名で電話を受けた時の一期一会の人間関係といえます。それぞれ関係性の違いはあるものの、活動の中で、多様な人々とそのパーソナリティ、自分と異なる性格や考え方や接することがあります。クライアントと接する中で、相手の怒りやネガティブな感情に接して困ったことや、クライアントに対し自分が感情的になってしまい失敗したなど感じたこと、活動のしにくさや継続の難しさを感じたことがある人もいるのではないかと思います。

今回の研修は、講師の野坂さんを中心として、まず人間関係の得意・苦手を各自記入したうえで自己紹介から始まり、そして「クライアントとの関わりをふりかえる」のグループワーク、セルフケアのチェックシートをグループに分かれて話し合い、全体で共有する形で進行了ました。最後に、まとめとして、野坂さんからセルフマネジメントについてレクチャーをしていただき、参加者それぞれのストレスマネジメントの方法について整理をしました。

（報告：牧原、佐藤）

「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法～」を受講して

HL部門 比留間 毅浩

自分自身の精神面のケアとかマネジメントということ今まで特に意識したことはなかった。それは、今まで自分が精神的に追い詰められた経験がなかったからかもしれない。だからといって、自分が楽観主義なのかということそれはまったく違う。まさにそれとは正反対の性格だと自分では認識している。しかしながら、様々なストレスを感じながらも今まで何とかやってこられたのは周囲の暖かい人間関係に支えられてきたからではないかと思う。

2005年7月24日、「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法～」が開催された。

研修では、まず自己紹介カードが配布され、人間関係において自分が得意と思っていることと苦手なことを書いて各自の自己紹介を行うことになった。そのとき、真っ先に自分の頭に浮かんだのは、苦手な面であった。人見知りをしてしまうこと。周囲に溶け込むことが下手なこと。話し掛けるのが苦手なこと。思いつくことは、苦手なことばかりであった。自己紹介は簡単そうに思えて、自分にとっては一番難しいこと。それは、話せることはたくさんあるはずなのに、言葉として上手く表現できないからかもしれない。

ひととおり自己紹介を終えた後は、4つのグループに分かれて「クライアントとの関わりを振り返る」というテーマ

で、今までの活動を振り返って、印象に残っている出来事を記すという内容へと移った。正直言って、電話相談の活動を通して、今まで印象に残った出来事はなかなか思いつかなかった。電話相談は、クライアントと継続的な関わり合いを持つものではなく、電話を取った瞬間に出来上がった人間関係は、受話器を置くことによって終わってしまうからなのかもしれない。ただ、先生や他の受講者の方との話の中で、そうやって、一定の距離を置くことはセルフマネジメントを行う上で、大切なことだということを再認識することができた。

今回研修を受けて他の意味で良かったことがある。それは、ホットライン部門以外の方と顔を合わせ、お話ができたことである。他の部門の方とは、なかなか接点がない中で、それも大きな収穫であった。野坂先生ならびに研修を担当された牧原さん、大変ありがとうございました。

「ホットライン・バディ合同企画研修に参加して」

バディ部門 たから

バディの活動を始めて2年半が過ぎました。その間、私は一人のクライアントとその家族、友人たちとおつきあいをしてきました。クライアントの状況にはさまざまな変化があり、その度に自分の行動や言動はこれでよかったのかと反省することもしばしばです。そのような活動内容を相談できる場として毎月バディミーティングが行われていますが、平日のため仕事をしている私は参加が難しく、そこに今回のホットライン・バディ合同企画研修(日曜日!)のお知らせをいただき、よい機会と思い参加しました。

今回の研修は「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法～」がテーマでした。3～4人のグループでクライアントとの関わり方やセルフケアについて意見を出し合いました。活動内容もバディとホットラインでは異なり、相手の顔を見て相手に触れておつきあいをしていく我々バディに対して、複数の人と声だけでその時限りの関係を持つホットラインの人のお話はとても興味深く、もっといろいろ聞いてみたいと思いました。

また、セルフケアについて自分のケースを考えてみますと、私はクライアントに会った後はまっすぐに帰宅せず、常連仲間のいるお店に立寄るとか遠回りをして散歩するなど、少し気持ちを冷ましてから帰ります。活動報告レポートもすぐに書かず、数日後に思い出しながら書いています。しかしそれには、クライアントの状況を真摯に受けとめていないような、私個人の生活にクライアントの存在を拒否しているような、どこかうしろめたい気持ちを感じていました。それが、今回のミーティングで「苦手な状況に直面したら逃げる」「無理をしないで人に助けてもらう」という意見を聞き、そういう考え方もあるのだと少し楽になりました。研修でのさまざまな意見の中で、自分の偏った思い込みを少しずつ軌道修正している気がしました。

活動報告他

各部門より

● ホットライン

エイズ電話相談（ぶれいす東京および東京都委託）

- ホットライン・ミーティング他活動状況（ ）内は出席人数
- 7月
- 9日 第1回HL資料整理プロジェクト（7名）
 - 14日 エイズボランティア講習会「HIV治療の現状について」（6名）
 - 15日 東京都電話相談連絡会（2名）
 - 17日 世話人会（4名）
スタッフミーティング/ケースカンファレンス（13名）
 - 24日 「クライアントとの付き合い方～セルフマネジメントの方法」（パディ部門との共同開催）（6名）
 - 30日 第2回HL資料整理プロジェクト（5名）
- 8月
- 12日 東京都電話相談連絡会（2名）
 - 21日 世話人会（4名）
スタッフミーティング/ケースカンファレンス（12名）
 - 27日 第3回HL資料整理プロジェクト（6名）
- 9月
- 9日 東京都電話相談連絡会（2名）
 - 11日 スタッフミーティング/ケースカンファレンス（10名）
 - 25日 臨時世話人会「新人研修について」（5名）
 - 29日 平日フォローミーティング（5名）

相談実績報告

ぶれいす東京エイズ電話相談

	7月	8月	9月
日数(日)	5	4	4
総時間(時間)	20	16	16
相談員数(のべ)	6	4.5	5
相談件数(件)	29	21	24
うち(男性)	23	13	18
(女性)	6	8	6
(陽性者)	0	0	0
1日平均(件)	5.8	5.3	6.0

東京都夜間・休日エイズ電話相談（委託）

	7月	8月	9月
日数(日)	15	12	13
総時間(時間)	45	36	39
相談員数(のべ)	35	25.5	28
相談件数(件)	232	233	235
うち(男性)	186	187	165
(女性)	46	46	70
(陽性者)	7	1	1
1日平均(件)	15.5	19.4	18.1

この3ヶ月間はホットライン部門に新しい動きがありました。より良い相談をするために、相談用資料と相談環境の整備が行われ、新人スタッフの力も加わり、見違えるほど使いやすくなりました。また、スタッフミーティングの日程が固定化されたことにより、参加しにくくなったスタッフからの要望で行われた平日のフォロースタッフミーティングも、自主的な運営がなされ、スタッフのより積極的な力を感しました。

（報告：佐藤）

● ぷ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

- ミーティング（ ）内はぷ PEP参加人数
- 7月 9日 ティーンズ・クリニックミーティング@ジョナサン
 - 7月 17日 ティーンズ・クリニック反省会@月の雫(7名+兵藤)
 - 8月 9日 早稲田大学 qoonとのミーティング@事務所
(1名+池上、生島)
 - 8月 22日 早稲田大学 qoonとのミーティング@高田馬場(1名)
 - 8月 28日 ティーンズ・クリニック反省会@月の雫(6名+兵藤)
 - 8月 31日 ティーンズ・クリニック臨時ミーティング
 - 9月 11日 ティーンズ・クリニック反省会@月の雫(4名+兵藤)

ティーンズ・クリニック実施状況（ ）内はぷ PEP参加人数
7月 17日（7名） 8月 28日（6名） 9月 11日（4名）

その他

8月 13日 東京レズビアン&ゲイパレード参加（7名）

相談メール件数

7月：0件 8月：3件 9月：4件

ぷ PEPケータイサイトがまもなくオープンします。最初はティーンズクリニックの宣伝がメインとなりますが、セクシュアルヘルスウェブサイトと平行して、減少傾向にある相談メールの窓口として活用していければいいと思います。

（報告：じっつー）

● バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数
(第1木曜 11:00 ~ 第3木曜 18:30 ~)

7/7	4人	7/21	4人
8/4	4人	8/18	4人
9/1	3人	9/15	2人

利用者数

7カ所の病院に通院中、もしくは入院中の20名の方への23名のバディスタッフを派遣

訪問先（2005 / 9月末現在）

在宅訪問 12件、病室訪問 4件
在宅への電話のみ 1件、派遣休止 2件
派遣終了 1件

派遣調整

派遣調整 4件

バディ担当中のスタッフ構成（9月末現在）

女性 11名 男性 8名

ケースの個別トレーニング

9/30(金) 19:00 ~ 21:00 参加者 7名
講師：東京都視覚障害者生活支援センター 長岡雄一さん

バディの現場から

今年の合同研修者のうちバディ活動の希望者が14名ありました。11月3日(祝)のワークショップを修了した後、活動に加わる予定です。中には既に活動が予定されているバディもいます。これから徐々にミーティング等に参加するようになると思いますので、よろしくおねがします。（報告：牧原）

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
7月	27日	198名	(8名)	(8名)
8月	23日	112名	(7名)	(9名)
9月	25日	142名	(17名)	(12名)

(*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者 PGM 第 23 期 (参加者 6 名): 7/10 7/23 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第 24 期 (参加者 4 名)
8/11 8/25 9/8 9/22 (修了)
- ・陰性パートナー・ミーティング: 7/9 (3 名) 9/10 (3 名)
- ・ミドル・ミーティング: 7/9 (6 名) 9/10 (5 名)
- ・もめんの会: 8/5 (4 名)
- ・グリーフワーク: 9/27 (2 名)

学習会 / イベント

- ・7/31 更生医療の制度変更についての学習会
(講師 3 名 参加者 47 名)
- ・9/21 女性陽性者のための学習会 ~ Dr. 対馬ルリ子と話そう ~
(参加者 8 名)
講師 / 対馬ルリ子さん (ウィメンズ・ウェルネス銀座クリニック)

ミーティング (陽性者メンバー / ぶれいす東京スタッフ)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
7/28 (3, 4) 9/29 (4, 5)
- ・新陽性者 PGM マニュアル検討会: 9/13 (2, 1)
- ・web NEST 運営委員会
7/22 (2, 2) 8/19 (2, 2) 9/16 (2, 1)
- ・+ (プラス) ランチ・パーティ準備会: 8/27 (3, 2)
(報告: はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 12件 (平均 2.4 件) 8月 13件 (平均 3.25 件)
9月 15件 (平均 3.75 件)

東京レズビアン&ゲイパレード 2005 (8月 13日)
レッドリボン付きバッジ 1000 個やコンドームケースセット
500 組などを配布。約 4 万円もの寄付金が集まりました。

東京レインボー祭り (8月 14日)
Living Together などの冊子を配布。

Voice'05 (11月 26日)

開催日に向けて着々と準備を行っています。今年はウェブ上で
動画宣伝実施中! <http://gf.ptokyo.com/voice05/>
(報告: タカシ)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2005 年 7 ~ 9 月

2005 年	7 月	8 月	9 月
電話による相談	57	53	58
対面による相談	47	32	44
E-mail による相談	130	107	93
うち新規相談	11	11	17

新規来訪者情報源 (N=39)

web: 8 他の陽性者紹介: 7 他団体: 3
パートナー: 2 冊子・雑誌: 2 保健所・検査所: 2
看護師 (コーディネーター): 2 医師: 1 カウンセラー: 1
ソーシャルワーカー: 1 福祉事務所: 1 行政: 1
電話相談: 1 子供: 1 知人: 1 不明: 5

新規相談者の属性 (N=39)

HIV 陽性者 (男性: 25、女性: 3)
パートナー・配偶者 (男: 6、女: 1)
親 (母親: 3)
不明者 (男: 1)

7 ~ 9 月新規相談内容

- ・本人 / 周囲の人の感染が判明した後の不安や混乱
- ・服薬の開始について
- ・医師から毎回パートナー告知を迫られる
- ・告知後の医療機関の選択、医療費について
- ・薬物依存に関する相談
- ・転居と地域のサービスの変化
- ・気分が落ち込んでいる、いろいろと話したい
- ・地方で孤立している、他の人と交流希望
- ・就労を希望しているが状況は厳しい
- ・医療関係の仕事をしているがこのままでいいのか
- ・医師との人間関係が悪化、通院していない
- ・判定保留の告知を受けたがどうしたらいいか
- ・出産直後で情報が欲しい
- ・学習会への参加について相談したい
- ・ボランティアへの参加について
- ・転居で入居時に大家に病気のことを言うのかどうか
- ・パートナーの死について
- ・つきあひだした恋人がいる
- ・開業医で告知されたが、紹介された病院でいいのか
(報告: 牧原 / 生島)

研究部門

厚生労働省委託 厚生労働科学研究

「HIV 感染予防対策の効果に関する研究」(2003 年度 -)

8 月には合宿もあり、今年度の研究の柱である、教材パッケージ作成・地域でのクリニック予防介入実践・人材育成・陽性者による直接的啓発活動と陽性者の QOL 調査・陽性者による周囲への告知に関する調査などについて、検討と実践が進んでいます。

地域での予防介入実践としては、銀座のクリニックと共同で、月一回、若者向けの HIV 予防啓発活動を実施。人材育成事業は昨年度同様「性教育のための実践セミナー」を(財)日本性教育協会と共催。詳しくは P.8 をご参照下さい。

「HIV 感染者の地域生活支援におけるソーシャルワーカーの連携に関する研究」(2003 年度 -)

「HIV 感染症の医療体制に関する研究班(厚生労働科学研究)」の中の「HIV 感染者の療養生活と就労に関する研究」の報告書ができています。ご希望の方は事務所まで。
(担当 吉田 e-mail: research@ptokyo.com)

(財)エイズ予防財団助成 研究成果発表会

『知識から意識へ ~ HIV 予防介入の実践とその評価 ~』

上記「HIV 感染予防対策の効果に関する研究」の 2004 年度の成果に関し、「若者の性の健康」をテーマに、広く市民の方々に向け発表する催しです。7 月の第一回開催に続き、第二回の発表会として、熊本での日本エイズ学会開催に併せ、12月2日(金)に熊本市市民会館にて開催予定。詳しくは P.8 をご参照ください。

『知識から意識へ ~ HIV 予防介入の実践とその評価 ~』

上記「HIV 感染予防対策の効果に関する研究」の 2004 年度の成果のうち特に「感染者と周囲の告知・被告知経験に関する研究」について、「東京レズビアン&ゲイパレード 2005」の開催に併せて発表会を行いました。研究者からの発表に加え、ゲイシーンでの HIV/AIDS の現状をよく知るゲストも交えたトーク・セッションも行われ、200 人近くの来場を得ました。詳しくは P.2 をご参照ください。

(報告: 吉田)

お知らせ

VOICE 05 Our Future ～私たちの未来～

このイベントは一人でも多くのゲイに HIV/AIDS について考えるきっかけをもって欲しい。それも、多くの仲間と楽しい雰囲気の中で、そんな思いから「VOICE」は始まりました。9回目を迎える今年のテーマは「私たちの未来」です。感染が広がりゆく今、私たちはどこに向かっているのでしょうか。



【日時】2005年11月26日(土)
17:30～20:30(17:00開場)

【会場】四谷区民ホール(地下鉄丸の内線新宿御苑前駅徒歩3分)
【入場料】1000円(ゲイ・バイセクシュアル男性のみ入場可)
【主催】財)エイズ予防財団、ぶれいす東京Gay Friends for AIDS
【後援】パディ、G-men、サムソン、薔薇族
【協力】ルミエール、Rainbow Ring

【出演者】
NONOCHIC / 藤本大祐 / オナン・スペルマーメイド
ブルボンヌ / 肉襦袢げづ美 / divertimento / スキンエコー
エスマラルダ(司会&ドラッグ) / ベーすけ(司会&Piano)

ぶれいす東京のVIDEOコーナー
PERSONZのボーカルJILLへのロングインタビュー。あるゲイのファンとの交流のなかで彼のHIV陽性が判明。そんな時に「Dear Friends」などJILLの歌が彼を励ました。二人の交流を経て生まれた新曲「HIVE」誕生の軌跡をたどる。
<http://www.personz.net/>

【問い合わせ】ぶれいす東京
TEL 03-3361-8964
E-mail gf@ptokyo.com
詳細は、<http://gf.ptokyo.com/voice05/>(携帯でもアクセス可)

訂正とお詫び
Newsletter No.46(2005年8月号)P.2左下の写真のキャプションの表記に誤りがありました。訂正をしてお詫びいたします。
(誤)舞台にフリッカさんとアジア太平洋地域の35名のHIV陽性者

(正)舞台に上がったフリッカさんとセブンシスターズの35名のメンバー

編集後記

- ・もう何冊目になるだろう、整理整頓系の本を手にするのは…。年末に向けて今月からガラクタ処分はじめました。(こんどう)
- ・先月、海と山に囲まれた数日を過ごしました。遠くを見ることも大事ですね。足元ばかり見ていちゃいけない?(やじま)
- ・寒さ到来の時期となりました。手足が冷える私は、血流をどう増やすかで苦心します。運動不足という根本的な問題のような気もするのですが、なかなか運動量は増えなくて。(いくしま)

2005年度「性・エイズ教育のための実践セミナー」 ～今日から役立つセクシュアル・ヘルスの実践の取り組み～

ぶれいす東京は、セクシュアル・ヘルス(性の健康)の視点から、性・エイズ教育を考えています。

2005年度は、ぶれいす東京の若者支援の経験や、独自の研究活動の成果をもとに制作されたオリジナル教材を導入。具体的な教室での取り組み、エイズやそのほか性に関連した諸問題をめぐる「若者支援の実践」を紹介しします。

【主催/会場に関するお問い合わせ/申し込み先】
(財)日本性教育協会(JASE) Tel. 03-6801-9307

【企画・運営/セミナー内容に関するお問い合わせ】ぶれいす東京
【日時】

- 1) 授業展開コース
2006年1月28日(土) 10:00～16:40
1月29日(日) 10:00～16:40
- 2) HIV支援と連携コース
2006年2月18日(土) 10:00～16:40
2月19日(日) 10:00～16:40

【会場】(財)日本性教育協会

【対象者】学校や地域での性教育実践にかかわる方・関心のある方(養護/教員、保健師/助産師/看護師、心理士、コミュニティワーカーなど)定員約30名

【受講料】各コース(全2日間)8,000円(昼食代込)
原則として、いずれのコースも2日間連続受講が可能な方を対象とします。

若者の性の健康についてのサテライトシンポジウム
「知識から意識へ～HIV予防介入の実践とその評価～」

来る12月に熊本にて行われる第19回日本エイズ学会学術集会に併せ、『若者の性の健康』をテーマとする研究成果発表会[厚生労働科学研究費(エイズ対策研究推進事業)研究成果等普及啓発事業]を開催します。

【日時】2005年12月2日(金) 18:50～20:30

【場所】熊本市民会館 第3会場

【主催】(財)エイズ予防財団

【内容(予定)】
「新しい予防教育のストラテジー」池上千寿子
「HIV陽性者による周囲への告知の影響に関する調査」生島 嗣
「ピアによる教材とその効果」徐淑子
「映像教材上映"Let's CONDOMing" 実際の啓発手法の紹介」
「自治体による当事者性を生かした取組」兵藤智佳

【参加費用・対象者】
日本エイズ学会の登録料支払有無にかかわらず無料、事前申込不要。どなたでも入場可。

【企画・運営/問合せ先】
ぶれいす東京 担当:吉田 E-mail: research@ptokyo.com

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304
TEL: 03-3361-8964(月-金 12:00～19:00)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: info@ptokyo.com
ぶれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>
Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>